

// 20歳 // の JDR へのメッセーじ



日本医科大学高度救命救急センター主任教授

山本保博

1979年12月、カンボジア
難民救援のため日本は初の救急
医療チームをタイへ送り込んだ。
山本保博さんがこれに参加した
のは翌年2月のこと。以来、調査
などを含めると、山本さんの被災
現場への派遣は30回を超える。

現在、救命救急医療の人材育
成に携わる山本さんの原点は、
医学生時代の体験にある。夏休
みに「東南アジア医学研究会」
を組織してタイの村で医療調査
を行ったのだ。日本では医療の専
門化が進む中、途上国や被災地で
はマルチな能力が求められること
を痛感し、マルチな能力を養え
る救急医療を志したのだという。

国際緊急援助隊（JDR）法
施行から20年。救急医療一筋に
歩んできた山本さんにJDRの
将来への夢を聞く。

（続きは裏ページへ）

「JDRにもっとチャンスを」

日本医科大学高度救命救急センター主任教授

山本 保博

Yamamoto Yasuhiro

1942年東京都出身。医学博士。日本医科大学医学研究科修了。80年、日本初の国際緊急援助活動であるカンボジア難民救援事業に参加し、82年の国際救急医療チーム(JMTDR)設立に貢献。以降、エチオピア、メキシコ、カメルーン、イランなどで援助活動に当たる。2002年度JICA国際協力功労者表彰受賞。平成18年度外務大臣表彰受賞。日本救急医学会理事をはじめ多数の公職に就く。著書は『緊急治療・薬剤ハンドブック 診療科医薬品集(じほう)』『救急医、世界の災害現場へ(筑摩書房)』『ふっ!よかった とっさの時の看護と救急(学習研究社)』など多数。



photos by Otsuka Masataka

僕がカンボジア難民の救援事業に参加したのは、1980年2月でした。当初、人的支援が遅れた日本政府に対して日本のメディアの反応は冷やかかでしたが、現場に着くとわれわれのチームはカンボジアの皆さんにすごく親しみを持って迎えられましたね。涙を流して喜ぶ人もいましたから、とてもやりがいのある仕事なのだろうとまぶす思いました。

このときの体験で、事が起こったら何はともあれ早く現場に着くことが国際医療貢献では重要だということがよく分かりました。そしてチームに参加した医師たちの間で「緊急事態が起きたとき、すぐ救援に駆け付けられるような組織をつくらう」という機運が盛り上がり、外務省やJICAに働き掛け、私の派遣から2年後に日本人による国際救急医療チーム(JMTDR)が正式に発足しました。

緊急時の支援というのは、現場に行かなければだめなんですね。発足時、JMTDRが現場で被災者の皆さんと苦労を共にし、患者さんの「痛い、痛い」といううめき声をそばで聞いてあげられるチームになるといいなと思いました。今年で国際緊急援助隊(JDR)は20周年を迎えましたが、今のJDR医療チームにはどこに出しても恥ずかしくないメンバーがそろっていると思います。

僕は、若い医療関係者の皆さんが、海外で支援活動に携わるチャンスをもっと増やすべきだと思うのです。また、大規模災害だけでなくもう少し小さな規模の災害や中越沖地震など、国内でもJDR医療チームを動かせたらいいのではないのでしょうか。ただ、派遣のチャンスをもっとつくるためには輸

送手段が必要です。緊急のミッションに使えるような専用機があるといいですね。

92年の国際平和協力(PKO)法成立とともに、戦争災害や難民への支援は自衛隊と内閣府の人道支援チームが担当することになり、JDRは自然災害への支援に限られるようになりました。しかし、このように役割を固定することなく、われわれの技能集団をもっと有効に使い、世界中の困っている人たちに支援の手を差し伸べていけたらと思います。

人的貢献に関しては、国境、宗教、言葉、政治などいろんな壁があり、政府もそれを重視するのは当然です。ですが僕は、それらの壁はわれわれが持つ“心の壁”で、打ち破っていかなければならない壁だと思います。現地の人とひざを突き合わせて医療を行い、元気になった患者さんの笑顔を見ると、医師になって良かった、看護師になって良かったと医療チームのメンバーみんなが思うものです。

災害の現場では、日本人はどこに行っても友達として扱われます。一つは青年海外協力隊や日本の援助が草の根的に活躍していることが、日本の優位性を形作っているのでしょう。

今後はJDRを日本だけのものにせず、アジアの皆さんと一緒にチームを組んで活動できればと思います。きっとそんな日が来るでしょう。チームの編成を拡大し、アメリカが持っているような病院船を用意して、手術や入院もできる体制も時には必要になるかもしれない。それを検討することは、JDRの夢が広がるとも言えるんじゃないかと思えますね。